令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢あすか通4丁目8-15		
自己評価作成日	令和5年12月21日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・御利用者様が安心や生きがいを持ち、笑顔が増えていくのがグループホームの役割と考えております。
・そのための少人数での共同生活であり、毎日の絆つくり、役割を持つ嬉しさを重要視しています。
・そのための支援として、認知症者、要介護者が抱いてしまう不安定な感情を量ることに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市の前沢総合支所やJR前沢駅からほど近い住宅地に立地しており、支援学校や保育園、図書館、講演や大型ショッピングセンター等も近接している。「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」の理念を基に、利用者一人一人の個性を尊重したケアに努めている。地元自治会に参加し地域との良好な関係を継続しており、敷地の一角を地域のリサイクル収集場所として提供するなど、地域の方々の利便にも貢献している。コロナ禍で、多くの交流機会が休止となっていたが、今年度からようやく中学生の職場体験の受け入れが再開したり、地元の歌謡ボランテイアの来訪があるなどしており、地域との交流活動を中心として復活してきており、交流を通じて利用者の楽しみの機会も増えてきている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時から変わることなく「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を事業所理念としている。御利用者様と職員、御利用者様間だけの助け合いに加えて、地域との助け合いを実感している。	開設当初に、利用者が七夕の短冊に願いを込めて書いた言葉を理念としている。理念をホール内に掲示するとともに、職員が毎朝唱和して浸透を図っている。また、ホーム長は業務の中で、理念に抵触すると思われる事象が見られる際には、職員と話し合って意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あすか通りが新興住宅地として発展していく初期からホームが開設しており、地域の拠点となっている。日常的には地域のリサイクル缶集積場として住民の出入りがある。	町内会に加入し、地域の防災会との連携もある。また、地域貢献の一つとして、駐車場の一角を地域のリサイクル資源置き場に提供している。また、今年度になって中学生2人を職場体験として受け入れたほか、地元の歌謡ボランテイアも久しぶりに来所して、歌や踊りで利用者を楽しませてくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は活動をしていない。コロナ禍以前は地域との共催イベントを開き、実際に認知症御利用者様と、そこに関わる職員や御家族様との笑顔や支援の姿をみていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度からコロナ禍以来の対面開催の会議を再開している。職員不足の折、出来る活動は限られているが得られた情報をサービス向上につなげている。	運営推進会議は、民生委員や町内会長、地区長などでバランスよく構成されており、今年度から久しぶりに集合開催となっている。事業所からの報告が主となっているが、町内の祭り開催の話なども出されている。家族代表の参加もお願いしているが、まだ参加いただけないでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市民福祉グループ長様には運営推進会議に御参加いただいている。、外にもコロナワクチン担当様や生活保護の担当様と必要に応じて相談や報告を随時に取らせていただいている。	市前沢支所の福祉グループ長が運営推進会議の委員であり、毎回出席して助言等をいただいている。また、地域包括支援センターの職員とは必要に応じ日常的に連携をとっている。利用者の中には生活保護受給者が数人おり、担当ケースワーカーが年に数回来訪して状況を良く確認している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特にも認知症ケアにとって身体拘束は御利用者様の気持ちの不安定を大きく助長するものだという認識を持っている。ただし、夜間の玄関施錠は防犯上、行っている。	身体拘束適正化委員会を概ね3ヵ月毎に書面で開催し、マニュアルの確認などを行っている。特にスピーチロックについては、不適切と思われる言葉が聞かれた場合には、その都度注意喚起している。玄関は防犯対策も兼ねて夕方6時から翌朝9時まで施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に有り得ないこととして認識を深めている。 常に言葉遣いなどを意識し、相互に注意喚起をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御利用者様、また御利用前でも情報提供をいただいた段階で、その対象が適している場合は相談に乗るよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終結時、及び契約終了となる可能性が見えた段階で話し合いを設け、必要に応じた支援をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様と職員で同じテーブルを囲む時間が多い。御家族様の来訪、電話時も介護職員が応対している。そのなかで芽生えた関係性から御意見を頂きやすい雰囲気を構築している。	家族には、毎月利用者の様子を写真なども添えてお知らせし、好評である。面会等で来所した際には、ホーム長も面談し、ケアの内容等についての要望も伺っている。利用者からは、通院の際や入浴時の会話の中から希望なども伺っており、季節ごとのイベントなどが話題となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は介護業務に入って職員の意見、提案を常に聴きルーチン作業の効率化など即反映されている。	経験が浅い職員が多いためか、職員会議のような改まった場面ではあまり発言がなく、むしろ日常業務の中で、意見等が良く出されている。キッチンの棚の追加などの提案があり、具体化している。ホーム長は、職員との個別面談の実施も検討していきたいとしている。	

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成前には休日などの勤務希望を募っている。毎月の事業所行事は介護職が主導で行なう。また状況に応じた待遇改善を図るなど仕事への意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を定期的に開催している。加えてコミュニケーション技法などは働きながらトレーニングしている。経験量に応じて任かせる内容を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社運営のグループホームが他に3箇所あり情報交換や相互訪問をし、質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約前から情報収集に努め、困っていること、求めていることを把握。職員間で情報共有してサービス開始直後から個に応じた支援に取り組めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、契約前から情報収集に努めている。契約後に徐々に表出してくること、変化していくことも多いため、管理者は臨機応変な対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申請時の御話のなかで、家族の介護実情を把握し、ホームに空きが出るまでの繋ぎとして他介護サービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は御利用者様と同テーブルで過ごす時間が多く、雑談ができる環境を常にしている。顔を合わせ肘を寄せて、食事の準備、片付けや洗濯物干しや畳み方を協力して担っている。		

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会、電話時の応対は介護職員が担っている。継続した関係性から御利用者様を含めた三者でも雑談が拡がるなか、共に支援している意識も拡がっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外の友人等の面会も受け入れている。定期受診は入居前と同じ病院を利用しており、知り合いに逢う頻度の維持に成っている。 ドライブ外出の際は、利用者様の馴染みの場所を行き先に選んでいる。	家族以外の幼馴染や友人が面会に来ることもあり、馴染みの関係が復活し、また、通院時に知人と会うことも良くある。4人の利用者が衣川地区の方であるため、通院後には懐かしい衣川方面にドライブすることが多い。1人の方は地元の馴染みの美容院に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が率先して御利用者様方と同テーブルで過ごし、共に過ごす時間を大事にしているため、御利用者様間も自然に会話し、助け合いができる雰囲気が構築されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院期間が長期化するため当方とのサービス契約を終了することが殆どである。そのため、契約終了後であっても病院退院後の生活など必要に応じた支援ができるよう、必要に応じて御家族様と連絡を取り合っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は御利用者様方と同テーブルで過ごし、共に過ごす時間を大事にして、こまかな言動、表情の変化も把握できるよう努めている。御利用者様からの希望、意向も御話いただける雰囲気も構築され、培った把握力で実践の可否を検討していく。	利用者の約半数は言葉で意思表示ができており、その他の利用者は表情や動作を見ながら意向等を把握するよう努めている。利用者の希望は、花見などで外出したい話や刺身を食べたいという事が多く、なるべく対応している。入浴時や夜勤時などのゆっくり話せる時間を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前から家族様や市町村、利用されている介護サービス事業所から情報収集をしている。入居後も失礼にならなければ、面会の友人等から生活歴の把握をさせていただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は御利用者様方と同テーブルで過ごし、共に過ごす時間を大事にして、こまかな言動、表情の変化も把握できるよう努めている。		

令和 5 年度

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員にて定期的にサービス結果のモニタリング及び御本人の意向を再確認している。その後のあらたな計画立案後は家族様にて意見を記入いただく体制をとっている。	ホーム長が計画作成担当者を兼ね、職員の日々のケース記録票等を基に、モニタリングを行っている。介護計画は概ね6ヵ月毎に見直しを行い、家族の意向などを再確認して、職員会議での協議と検討を経て決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、または目的別に複数の記載項目を設けて毎日取り組んでいる。情報共有及び介護計画等に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の性格や特技に合わせて多種多様な余暇援助を工夫している。個々のニーズにも柔軟に対応できるよう業務形態を工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立地に恵まれ、地域からの協力が厚い。個々のニーズに合わせて地域行事に出向くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と関係づくりができており、必要に応じた処方薬調整を相談している。歯科は往診治療をしている。	入居前からのかかりつけ医の受診を継続しており、大半の通院には職員（ホーム長）が付き添っている。ホーム長が受診時に付き添うことで、医療機関との連携が深められているというメリットもある。歯科は訪問診療を受診している。看護業務については、看護師がいないために不十分さを感じている。	かかりつけ医との連携は良く取れているものの、日頃の体調管理や緊急時の対応など、訪問看護サービス等の活用の範囲は広いと思われることから、今後の改善に向けた検討を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医、または事業所の協力病院の看護師との関係つくりができており、細かな相談ができている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	周辺病院との関係つくりは成されている。入院中の訪問や必要に応じて病院関係者と連絡を密にして協力をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時および症状変化から必要に応じて家族等と相談をし、方針を共有している。また、いざ重度化した場合は担当医とも相談を密にして、ホームで対応できること、具体的に入院する段階になる目安などを細かく連絡を取っている。	入居時に本人と家族に対して重度化した場合の対応について説明し,了解を得ている。看取りの取り組みは行っていないが、ホームでギリギリまで対応した後に入院するケースは経験している。重度化した場合には入院となるケースが多く、特養施設に変更となる方もいる。看取りについては中期的な検討課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員のスキルが上がっていく中で段階的に訓練を計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同じく、職員のスキルが上がっていく中で段階的に計画している。地域には自主防災組織があり日頃からの付き合いがあるなか災害時の協力体制も強固になっている。	ハザードマップで浸水等の地域指定はない。火災想定の避難訓練を年2回実施し、概ね良くできたと考えている。次年度からは地域の防災会と共同の開催も考えている。近隣住民2人ほどの協力者が想定され心強い。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。職員の関わる姿勢や工夫しだいで利用者様の心身の健康は大きく変わることを理解している。	利用者への声掛けは「さん」付けで行うよう心掛けており、居室への入室時のノックも励行している。失禁した場合などには、その気持ちに沿いながら周りに気づかれないようさりげない対応としている。若年性認知症の利用者には、その意向を尊重してトイレに一緒に入らないよう配慮している。	

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は御利用者様方と同テーブルで過ごし、共に過ごす時間を大事にして、こまかな言動、表情の変化も把握できるよう努めている。御利用者様からの希望、意向も御話いただける雰囲気も構築され、培った把握力で自己決定の幅も随時に検討されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上で御利用者様の、個々の、その日その時のペースを把握して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに合わせて美容院に通える体制がある。美容液や洋服をホーム職員にて個々の要望等に合わせて購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日課になっている。多くの御利用者様が毎食の食事作りに関わっている。役割を担う喜びに繋げている。	法人から提供される献立を参考に、職員が調理している。利用者の好みを反映するよう心掛け、餅やすいとん、芋の子などが喜ばれている。家族から豆腐や野菜等が差し入れられ、利用者は野菜を切ったり、下拵えや盛り付け等の手伝いを自分の仕事として手伝ってくれている。利用者は、ホットケーキのおやつ作り等も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量や食材の刻みの工夫をしている。栄養バランスも1食あたり10品以上の食材を使用するよう努めている。水分量は食事、おやつ時以外でも自由に飲めるように専用のペットボトルを常時手元に準備させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後の歯磨きは全利用者が必要性を理解して取り組んでいただいている。歯科往診ができる体制にあり、磨き残しの部位の把握やブラッシング介助の技術を学んでいる。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全御利用者様のトイレ頻度も把握できるようチェックしている。介助で尿パッドを常時交換する必要がある御利用者様であっても、トイレで便器に座って力んでもらう習慣を続けている。	布パンツで自立の方が2名で、他はリハビリパンツを使用している。排泄チェック表を活用したり、利用者が立ったタイミングで声掛けしたりしながら、適時のトイレ誘導を行っている。入居後に自立に向けて改善した方もいる。誘導の際には、「洗面所で手を洗いましょう」などと、声掛けを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調変化や、個々の便秘薬の効き目の違いを把握している。全御利用者様がペットボトルを所持して頻回に水分補給をしており、昼食前にはリハビリ体操に取り組んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は職員体制の弱さから希望日、希望時の入浴は難しい。体制強化に努めている。	週.2回の入浴を基本としている。一般浴槽の利用で、職員と1対1となる時間でもあるため、良いコミュニケーションの機会となっており、利用者はリラックスできている。楽しみのため入浴剤を毎回使用している。異性介助を拒否する方はおらず、入浴を嫌がる方もあまりみられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活サイクルや日々の体調等に合わせており、定まった就寝時間や起床時間に拘りはない。必要に応じて食事開始を遅らせたり、居室以外でも休息や居眠りできる場所がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほぼ定期通院は職員が担っており、医師との相談のもと量や服薬時間の調整も必要性に応じて行い、効用時間や効果程度を把握して、再び医師に相談するといった体制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリ体操以外に定まったレクリエーションは設けず、個々に合わせた時間をつくっている。食事や洗濯などの役割を担う中でも、個々の嗜好や体力等に合わせた内容調整を、共に取り組む職員がさりげなく支援している。		

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外は散歩や遠足を計画できる体制がある。知人や御家族様と出かけるケースも其々の御都合によって実現している。	現状では通院時の外出が主であり、衣川方面をまわって帰ること等を行っている。天気の良い日にはテラスでの外気浴も行っている。利用者の希望に沿って外出機会を増やすことを考えており、以前のようなお花見ドライブや近所の散歩等の復活を目指している。	外出機会は、利用者のリフレッシュやストレス軽減にも有効であることから、職員体制の改善と併せ、以前のようなお花見ドライブなどの機会を持てるよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態に応じてではあるが、財布（お金）を所持する方もいらっしゃる。自尊心を損なわないよう留意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。自尊心の維持に加え残存能力の維持にも繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に天窓があり、ホールには季節を感じられる装飾や生け花の展示を心がけている。床暖房は各居室やホールでも其々に温度コントロールができるようになっている。キッチンは開放型で香りで食事時間を感じていただけるような工夫をしている。	ホールにはテーブルやソファー、大型テレビが備えられ、天井には4か所の天窓が設けられており明るい日差しが差し込んでいる。また、全館が床暖房であり、ほんのり暖かい空間が創られている。壁面には、十二支の貼り絵や利用者の作品などが飾られ、暖かい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々または数人のみで過ごせるスペースがあり大きな窓から外を眺めたり、少人数での談話場所と成っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのカーテンやタンス以外は個々が自由に家具を配置できる状況である。	居室は、床暖房により温かく適温に保たれている。リースのベッドや大きめのチェストが備え付けられており、利用者は衣装ケースや洋服掛けなどを持ち込み、壁にはカレンダーや塗り絵作品を飾るなどして、居心地よい空間となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さにしている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。浴槽には着脱可能な立位バーや補助椅子がある。		